

# DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

## 国内株式および国内債券市場 2021年4月～6月

### 運用先市場の状況

作成基準日 2021年6月30日

#### ○国内市場

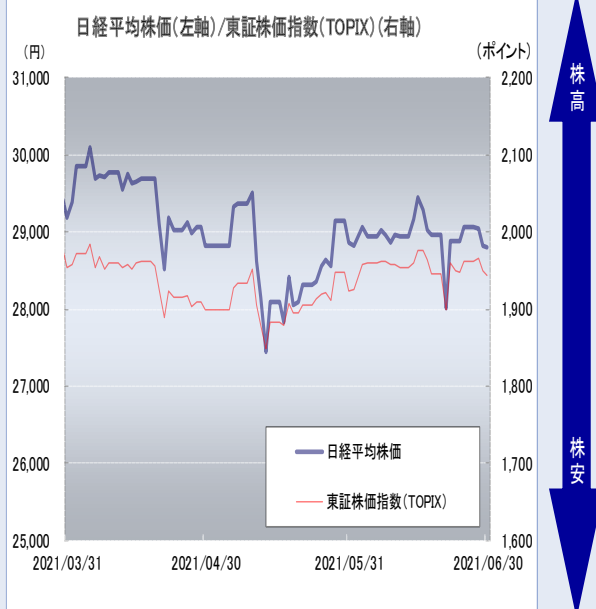
##### ・株式市場

国内株式は一進一退の展開となりました。

4月は上半旬、日銀短観などを好感し上昇する場面があったものの、国内企業の決算発表を控え、一進一退の展開となりました。中旬は、新年度の業績見通しが市場予想を下回る企業が相次いだことなどを背景に下落し、下旬も上値が重い展開となりました。

5月は上半旬、米国をはじめとした良好な経済指標等を受け上昇しました。中旬は、日銀によるETF(上場投資信託)買入れ期待の後退などが嫌気され、下落しました。下旬は、国内でのワクチンの大規模接種の開始による経済正常化期待等を背景に、堅調に推移しました。

6月は上半旬、ワクチン接種進展を背景に上昇しました。中旬は、FOMC(米連邦公開市場委員会)におけるタカ派的な内容を受けて下落しました。下旬は、米国のインフラ投資法案の進展などを好感した米国株の上昇があったものの、首都圏での変異ウイルスの感染再拡大が嫌気され、横這いで推移しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

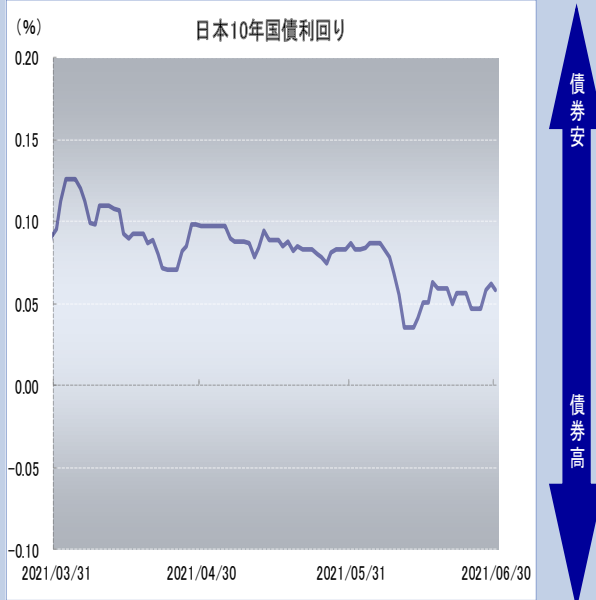
##### ・債券市場

国内長期金利(10年国債利回り)は低下しました。

4月は、3月末に日銀が国債買入れ減額方針を示したことで、長期金利は上昇して始まったものの、新発国債の入札がいずれも順調に消化される中で、低下へ転じました。その後は月末にかけて、金利水準の低下に伴う買い手の減少などの動きから、緩やかな上昇となりました。

5月は、日銀の国債買入れ予定額の据え置きなどを受け、長期金利は小幅に低下して始まりました。中旬には、インフレ懸念の高まりから一時的に上昇した米国金利に追随する場面もありましたが、長期金利は概ね横這いで推移しました。

6月は上半旬、米国においてCPI(消費者物価指数)の発表前後にポジションの巻き戻しが入り金利が低下すると、国内長期金利も低下しました。中旬のFOMCにおいて、利上げ予想時期の前倒しが示されたことが上昇材料になりましたが、インフレ抑制に繋がるとの見方も広がり、月末にかけては横這い推移となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**運営管理機関 : 三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841**  
平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。

# DC まめレポート

～運用環境振り返り編～

## 外国株式および外国債券、為替市場 2021年4月～6月

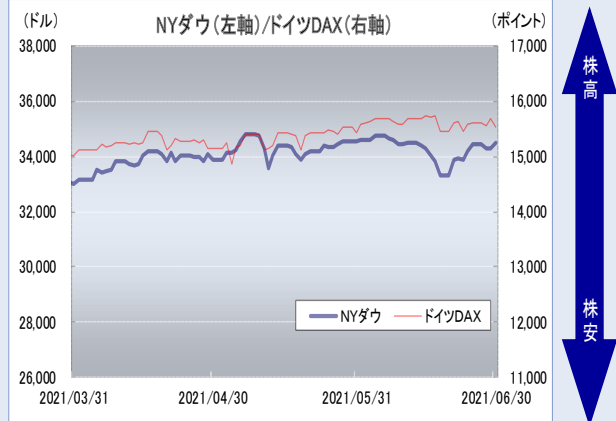
### 運用先市場の状況

作成基準日 2021年6月30日

#### ○外国市場

##### ・株式市場

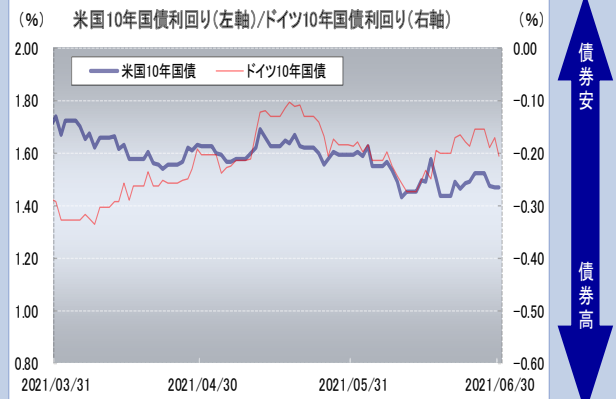
米国株式市場は上昇しました。  
4月は前半、堅調な経済指標などを受けて上昇しました。後半は、法人税率等の引き上げ観測、変異ウイルスの感染拡大などから下落する局面もありましたが、決算発表での堅調な企業業績が相場を下げ支えました。  
5月は中旬にかけて、4月のCPI(消費者物価指数)を受けたインフレ懸念により下落したものの、インフレ率の上昇は一時的なものとするFRBの見方が伝わったことから、月末にかけて緩やかに上昇しました。  
6月は上半、順調な景気回復への期待などから、株価は底堅く推移しました。その後は、FOMCにおける2023年の利上げ再開の示唆などを受けて下落する場面があったものの、FRBの金融政策の変更を急がないとの見方が広がると、月末にかけて上昇しました。  
欧州市場も上昇しました。  
世界的な経済活動正常化が進展しているとの見方の強まりや、ワクチン接種の進展に伴う経済回復に対する期待などを受け、上昇しました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

##### ・債券市場

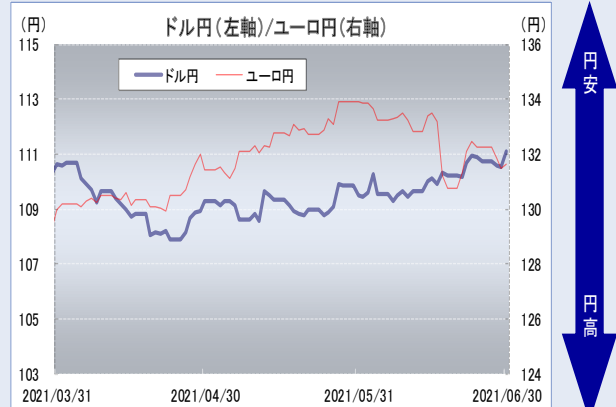
米国長期金利(10年国債利回り)は低下しました。  
4月は、ワクチンの接種進展や経済対策など金利上昇材料に対する織り込みが進み、債券市場で買い優勢となり、金利は低下しました。  
5月は上半、雇用統計など経済指標が事前予想を下回ったことから金利が低下しました。その後、インフレ指標が上振れたことを受けて中旬に一時金利が上昇しましたが、FRBからインフレ率の上昇は一時的との見方が示されるなど、インフレ懸念が後退する中で金利は再び低下しました。  
6月は上半、雇用統計が事前予想を下回ったことから長期金利が低下しました。その後、FOMCのタカ派的な内容を受けて、短中期主導で金利が上昇しました。しかし、将来の利上げ観測が高まる一方で、インフレ期待の低下などから長期金利は低下に転じる展開となりました。  
ドイツ長期金利(10年国債利回り)は上昇しました。  
ユーロ圏では、6月に入りECB(欧州中央銀行)理事会で、現行の資産購入ペースの維持など金融緩和の継続が決定されました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

#### ○為替市場

米ドル/円、ユーロ/円はともに円安となりました。  
4月の米ドル/円は、米金利の低下などを背景に米ドル・円高となりました。ユーロ/円は、株価の上昇などリスク選好の動きやユーロ圏内のワクチン接種進展を受けて、ユーロ高・円安となりました。  
5月の米ドル/円は、米金利の動きに連れて一進一退の推移となりましたが、米景気の先行き期待は根強く、米ドル高・円安となりました。ユーロ/円は、ユーロ圏内でワクチン接種が進展したことやEU復興基金への期待などを背景とする景気回復期待から、ユーロ高・円安となりました。  
6月の米ドル/円は、前半は一進一退の推移となりました。その後、FOMCのタカ派的な内容を受けて将来の利上げ観測が高まる中、米ドル高・円安となりました。ユーロ/円は、FOMC後の株価下落局面におけるリスク回避の動きや、ECB高官によるハト派的な発言を背景にユーロ安・円高となりました。



(出所) Bloombergデータを基に三井住友DSアセットマネジメント作成

**運営管理機関：三井住友海上火災保険株式会社 加入者専用コールセンター 0120-401-841**  
平日(月～金) 9:00～20:00 土日 9:00～17:00 (祝日・振替休日・年末年始等は休業させていただきます。)

■当資料は、確定拠出年金の運用指図を行うために参考となる情報の提供等を目的としたものであり、運用方法に係る勧誘等を目的とするものではありません。最終的な運用指図については、お客さまご自身の判断で行ってください。■当資料は、作成日において信頼できると判断した諸データに基づいて作成したものです。その情報の正確性、完全性を保証するものではなく、また今後の成果を保証・約束するものではありません。■当資料の内容について、無断で使用、転用、複製することを禁じます。